# ルネサンスの肖像と詩芸 ～ 生と死のあわいで

## 講師：水野 千依

（みずの ちより　青山学院大学文学部 教授）

**概要**：古代ローマの著述家大プリニウスによれば、絵画芸術の起源は、おそらく戦地へと旅立つ恋人の影をなぞった肖像にあるといいます。生と死のはざまで生みだされた肖像が、愛するものの死を悼み、不在を埋め合わせるとは、なんとロマンティックなことでしょうか。この逸話はルネサンスにもよく知られ、人文主義者アルベルティは「絵画は不在の人を現前させるばかりか…死者を生きているかのように現前させる神のごとき力をそなえている」と芸術の技を称揚しています。生命を欠いた物質にすぎない絵や彫刻が語り、動き、見るものに嫉妬や愛情を抱かせる…この「生けるがごとき肖像」というテーマは、本来は古代の詩芸において流行したもので、その伝統を復興したのが、イタリアを代表する詩人フランチェスコ・ペトラルカです。恋愛詩のなかで、もはや天上の人となった愛しいラウラの面影を追い求め、言葉で肖像を綴った彼の詩の影響は大きく、レオナルドやラファエロなどルネサンスの画家たちも詩芸と競合するように絵筆をとりました。
講演では、肖像と詩芸の競合のなかで肖像がいかに息づいていたのかを考えます。

**講師略歴**：美術史家。青山学院大学文学部教授。専門は西洋中世・ルネサンス美術史。フィレンツェ大学留学を経て、1997 年に京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。
2000 年より京都造形芸術大学（現在：京都芸術大学）専任講師、准教授、教授を経て、2015 年より現職。
単著『イメージの地層：ルネサンスの図像文化における奇跡・分身・予言』（名古屋大学出版会 、2011 年、第 34 回サントリー学芸賞、第 1 回フォスコ・マライーニ賞、第 7 回花王芸術・科学財団美術に関する研究奨励賞受賞）、『キリストの顔：イメージ人類学序説』（筑摩選書、2014 年、第 20 回地中海学会ヘレンド賞受賞）、共編著『聖性の物質性：人類学と美術史の交わるところ』（三元社、2022 年）、共著『はるかなる「時」のかなたに：風景論の新たな試み』（三元社、2023 年）、他。

■日　時：2024 年 4 月 13 日（土）15:00～17:00（JST・質疑応答含む）※開場は 14:50
※講演会質疑応答終了後、引き続きオンライン懇親会を行います（参加はご自由）。
■場　所：Google のビデオ会議システム “Meet” にて開催します。
推奨ブラウザ：Chrome, Firefox, Edge, Safari, Opera
※スマホでご参加の場合は Android,iOS の”Meet”アプリ DL を推奨
■参加費：・イタリア研究会会員　無料、・非会員の方　1000 円
※参加費振込先：三菱 UFJ 銀行 昭島支店 普通 0613695
口座名義：イタリアケンキユウカイ　ハシズメ コウヘイ
■お申し込み：参加には専用申し込みフォームにて事前申し込みが必要です。
お申し込みフォーム：https://forms.gle/2VM3MueVEPWpCGoZ8
※お申し込み締切　会員：4 月 13 日（土）12:00（JST）迄、非会員の方：4 月 11 日（木）12:00（JST）迄
■見逃し配信：当講演会は見逃し配信のため質疑応答までを録画いたします。講演終了後講師の最終許諾を得て原則として 1 週間の見逃し配信を行う予定です。ただし、通信環境ほか諸事情により配信ができなくなる可能性がございます。予めご了承ください
■お問い合わせ　administrator@itaken.page　（オンライン講演会ご参加に関するお問い合せ）
itaken-contact@googlegroups.com　（イタリア研究会へのお問い合せ）
https://itaken1.jimdo.com/　（イタリア研究会公式 HP）

イタリア研究会について

イタリア研究会は 1976 年発足の有志の研究会で、月に一度、講師をお招きしてオンライン、または会場とオンラインのハイブリッド方式でイタリア関連の講演会を開催しています。会員には終了後の見逃し配信サービスもございます。イタリアに興味がある方ならどなたでも参加できます。（年会費 8,000 円・入会金なし）。
■2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）ご入会フォーム：https://forms.gle/h1ngchiF61ywUzTn8